

## 荻生徂徠『太平策』を読む

渡辺 浩

### 一

この読書会は、二〇〇八年三月に、三回に分けて行った（五日、十日、十九日）。参加者は、40名だった（応募者は80名。読書会らしい対話性を確保するために、抽籤によって参加者をしぼらざるをえなかった）。テキストには、『荻生徂徠（日本思想大系三二〇）』（岩波書店、一九七三年）所収の『太平策』を用いた。丸山眞男が校訂し、簡略な注を付したものである。

荻生徂徠（寛文六／一六六六年―享保一三／一七二八年）は、丸山が日本政治思想史の研究を開始して以来、終生、関心を持ち続けた思想家である。そして『太平策』は、その徂徠が自らその独特の儒学思想全体の骨格を述べ、さらにその歴史認識・現状認識を明快に示した著作である。しかも、漢文ではなく、漢文訓読体の引き締まった和文で書かれている。そして、短い（使用したテキストで、注を含めて三九頁）。したがって、本書は、丸山理解にとって必読であり、しかも、

徂徠思想への入門にも好適であると考えられる。それが、本センターの読書会の対象としてこれを選んだ理由である。

毎回、参加者には、A四版二枚の参考資料を配布した。そして、第一回には、始めに一五分ほど、儒学とはいかなるものか、徂徠の生きた社会において儒学がいかなる位置にあつたか等について、簡潔に紹介した。また、徳川時代に刊行された徂徠の著作の实物を会場に持参して、回覧してもらった。さらに第三回には、やはり徳川時代刊行の江戸の大地図の複製を張り出して、徂徠の見解を視覚的にも理解してもらおうよう努めた。

### 二

これは、講義でもなく、講演会でもない。「読書会」である。そうである以上、共に読み、共に論じ、考えることが必要である。そこで、毎回、参加者に少しずつテキストを朗読してもらい、ついでその部分

について解説し、質問を受けるといふ形式で進めた。また、講師の側から参加者に質問し、口頭や挙手で答えてもらうということもした。特に第二回には、徂徠が豊富な語彙を見事に使いこなしていることを実感してもらうために、彼の別の和文による著作『政談』に現れる、珍しく、しかも実には確かな和語（往々、大型の辞書にも採録されていない）の一覧を配布し、それぞれの意味を皆で考えていただいた。さらに、単に徂徠を歴史的過去として理解するだけでなく、彼が取り組んだ問題がしばしば実は現代の我々にとっても他人事でない、重要な問題であることを強調し、いわば徂徠と共に考えるための刺戟を提供するように、努めた。

参加者は極めて熱心で、よく集中して会に参加しておられるように見受けられた。質問も活発だった（毎回、一時間半の予定だったが、三〇分ほど延長し、代わりに中間に数分間の休憩をとった）。講師としても、やりがいのある機会だったと感じている。

### 三

なお今後、このような読書をより実り多いものとするためには、次のような工夫もありうるのではないかと思う。それは、参加者と講師との会場での対話に加え、参加者同士の会話がさらに生まれるようにする工夫である。

(一) 一回二時間とし、中間の休憩を一五分か二〇分くらいたつぷりとする。  
(二) その間、できればお茶やクッキー等を会場のすぐ外に用意

して、その付近で自由に立ち話もできるようにする（そのために、必要ならば、現在無料の参加費を資料代も含めて有料としてもよいのではないだろうか）。(三) さらに終了後も、しばらくの時間は、同様の自由な会話の機会とする（無論、帰りたい人は帰ってもよい）。

そうすれば、参加者同士がさらに感想や疑問を述べ合うことにもなるであろう。また、会場での質問をためらう人も、ここでは気楽に講師と語ることができるようであろう。もしも、このような工夫によって、すぐれた書物をめぐる市民同士の会話・対話が多方向的に進展すれば、すばらしいと思う。

# 荻生徂徠『太平策』を読む

講師：渡辺 浩

(東京大学教授)

○ねらい： テキストは、丸山眞男が生涯関心をもち続けた、江戸時代を代表する思想家、荻生徂徠の著作です。きびきびした和文で書かれ、短いながら、徂徠の思想全体の骨格と彼の歴史認識・現状認識が、明快に示されています。これを参加者の皆さんと対話しながら、楽しく読み解いていきたいと思ひます。

○テキスト： 荻生徂徠『太平策』（テキストのコピーは主催者が用意します）

○日 程：

第1回：2008年3月 5日（水） 午後2時～3時30分

第2回： 3月12日（水） 〃

第3回： 3月19日（水） 〃



○場 所： 51号館1階・51101室

○参加費： 無料

○人 数： 30人（申込多数の場合は抽選）

○申込方法： 下記の①～③のいずれかの方法で2008年1月31日まで（当日消印有効）にお申込みください。2月上旬には結果通知はがきをお送りします。

①郵送の場合：参加申込書を下記住所まで送付する。

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 教育研究支援課

②FAXの場合：03-5382-6479まで送信する。

③E-mailの場合：support@office.twcu.ac.jpまで氏名・住所・電話番号を送信する。

○問い合わせ先：教育研究支援課 電話 03-5382-6453

\*下記にご記入いただいた個人情報は、読書会の運営及び当センターの行事案内にのみ利用いたします。

-----キリトリ-----

FAX 03-5382-6479

丸山眞男記念比較思想研究センター読書会「荻生徂徠『太平策』を読む」 参加申込票

氏 名 \_\_\_\_\_

住 所（〒 \_\_\_\_\_）

電話番号 \_\_\_\_\_